

請 願 番 号	請願第3号
件 名	県の責任による少人数学級の前進を求める意見書採択についての請願
受 理 年 月 日	令和3年3月3日
紹 介 議 員	井深正美、森下満寿美、堀田信夫、田中成佳、服部勝弘、松原徳和、高橋和江、原 菜穂子
付 託 委 員 会	文教委員会
<p>(請 願 要 旨)</p> <p>昨年、新型コロナウイルス感染症の拡大による長期の休業期間を経て学校が再開されたが、感染拡大の収束がまだまだ見えない中、学校現場では子どもたちへの学びの保障と新型コロナウイルスの感染対策を同時に行わなければならないという大変な局面に立たされている。また、身体的距離の確保、子どもの検温などの健康管理、個別の配慮が必要な子どもへの支援など、現在の40人学級では対応が非常に困難なことは明らかであるため、子どもたち一人一人に寄り添った教育をするには人員の確保が不可欠である。</p> <p>さらに、外国語の教科化による授業時数の増加、プログラミング教育の導入など、これまでの問題は棚上げのまま、学習の遅れを取り戻そうと土曜授業や夏季休業期間の短縮を行ったことで、学校現場の多忙さは解消するどころか加速している。</p> <p>コロナ禍において、子ども一人一人を大切にし、安全を保障するために社会が少人数学級の実現を求め、大きな世論が高まり署名運動が全国に広がった。</p> <p>そうした中、令和3年度から7年度までに小学校を35人以下学級にする内容の法案が閣議決定された。それに応えて、自治体独自の少人数学級は全国で着実に前進すると予想される。岐阜県では、現在、小学校1年生から4年生まで及び中学校1年生は35人以下学級になっているが、岐阜県独自のさらなる前進を求める。</p> <p>よって、下記事項について、岐阜県に対し意見書を提出されるよう請願する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 子どもたちの命と健康を守り、成長と発達を保障するために、少人数学級を前進させること。</p>	
審 議 結 果	令和 3年 3月25日 (木) 不採択